

心の窓



校訓：かしこく やさしく あかるく つよく

令和4年3月23日（水）

南関町立南関第四小学校 学校だより

No.46（最終号） 文責：松永 尚子

令和3年度のおわりにあたって

いよいよ、今日が修了式です。そして、明日が卒業式となりました。今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に翻弄された1年間でしたが、「できることを、できるかたちでやろう」という気持ちで、いろいろな行事や活動ができました。参加する人数を制限して行った入学式、感染対策をしながら、今年度は4月から学校教育活動をストップすることなく始められました。6月からは、学校のプールでの水泳の学習、夏休みを終えて、9月には運動会、10月には見学旅行、5年生の集団宿泊教室（四つの小学校の連合で開催できました。）、11月には6年生の修学旅行、保護者有志の方々主催の四小まつり、12月には持久走大会、規模を縮小してのきずな解放子ども会まつり、年が明けてからは感染拡大のため対策をしながらビデオでの学習発表会（現在、ホームページで公開中です。）、6年生を送る会などたくさんの行事をとおして、子供たちは心も体も成長することができました。これも、保護者や地域の皆様のご協力、ご支援あつてのことと、心から感謝申し上げます。



こうして、今日の修了式を迎えました。卒業式は5・6年生のみの参加となりますので、四小の81名の子どもたち全員がそろうのは、今日までです。

3月21日（月）で、本県に出されていた「まん延防止等重点措置」については解除されますが、新型コロナウイルスがなくなったわけではなく、感染拡大防止のための対策をゆるめるわけにはいきません。どうぞ、春休みも感染対策を徹底していただきますようお願いいたします。そして、4月8日（金）の就任式、始業式には全員元気に登校し、新しい学年でのスタートが切れるように、よろしくお願いいたします。

校庭の桜がもうすぐ開花します。

3月20日（日）、熊本県で桜（ソメイヨシノ）の開花宣言がありました。平年より2日早く、昨年より3日遅いそうです。校庭の桜はこれから咲き始めるところです。桜はとても美しいのですが、春は出会いと別れの季節。ちょっと寂しい気持ちにもなります。桜の花言葉には、「私を忘れないで」という意味もあるそうです。



詩を紹介します。

今号が最後となりますので、子どもたちへのエールの意味も込めて、詩歌を紹介しようと思います。まず、なんと言っても、幼少時を南関町で過ごした北原白秋です。以前も紹介しましたが、再度掲載します。「一つの言葉」です

一つの言葉
北原白秋

一つの言葉でけんかして
一つの言葉で仲直り
一つの言葉で頭が下がり
一つの言葉で心が痛む
一つの言葉で楽しく笑い
一つの言葉で泣かされる
一つの言葉はそれぞれに
一つの心をもっている
きれいな言葉はきれいな心
やさしい言葉はやさしい心
一つの言葉を大切に
一つの言葉を美しく

言葉は、子どもたちの心をつかむ力をもっています。子どもたちの心を豊かにするために、言葉の力を大切にしたいです。言葉は、子どもたちの心を豊かにするために、言葉の力を大切にしたいです。

もう一つ詩を紹介します。作者は坂村真民という人です。熊本県玉名郡本村（現在の荒尾市）の出身の方で、熊本で教員をされていたが、朝鮮に渡り、終戦後は愛媛県で教員をされた方です。「詩は未来を切り開くためのものではなく、わたしの願いであり、祈りなのである」（詩集『念ずれば花ひらく』サンマーク出版より引用）

すべては光る
坂村真民

光る
光る
すべては
光る
光らないものは
ひとつとしてない
みずから
光らないものは
他から
光を受けて
光る

つみかさね
坂村真民

一球一球のつみかさね
一打一打のつみかさね
一歩一歩のつみかさね
一坐一坐のつみかさね
一作一作のつみかさね
一念一念のつみかさね
つみかさねの上に
咲く花
つみかさねの果てに
熟する実
それは美しく尊く
真の光を放つ

子どもたち一人一人が光の持ち主です。一人一人が光り輝く南関四小となりますよう、今後とも、どうぞよろしくお祈りいたします。